

小高復興デザインセンター

小高志

No.12

2018年3月

「未来を考え、
未来へ受け継ぐ」



大槌臨学舎

大槌臨学舎は、被災地の放課後学校として、主に中高生を対象に学習指導等を行う場所です。ここで、大槌町の高校生と交流会を行いました。「大槌町が大好きという気持ちを感じられてすごいと思った。」「まちを少しでも良くするために、自分がやりたいことを形にしていこうという気持ちを見做りたい。」というように、みんなが同年代の高校生から刺激を受けることができました。「小高の復興ってなんだろう?」と、次の活動に向けて各自が考える機会となりました。



大槌の高校生に
LLO 活動の紹介
をする様子

大槌町赤浜公民館

赤浜公民館館長の古館さんと、震災直後から写真を撮り続けている菊池さんに、お話を伺いました。写真を見ながら、現在は閉校となった赤浜小学校での避難所生活から今日までの復興の過程を教えてくださいました。「震災の記憶を震災を知らない人に伝えていくことが一番の課題で、写真は伝えるための一つの手段だ」と聞いて、自分たちの取り組みをより多くの人々に知っていただくためには、どうすれば良いのだろうか?と考えています。



古館さん（中央）、菊池さん（中央右）との集合写真

LLO活動報告



Live Lines ODAKA (LLO) は、
小高を活性化させる高校生グループです。

視察研修・南相馬市長への
公開プレゼンテーションの様子を、特集します!



視察研修

in 岩手県大槌町・遠野市

2017年12月28日から29日にかけて、岩手県へ視察研修に行きました。まちづくりを行う団体を訪れ、今後のLLOの活動に役立てることが目的でした。東日本大震災の沿岸被災地である大槌町では高校生や住民の方々のお話を伺い、大槌町の後方支援拠点である遠野市では、支援団体のNPO法人と、これからのまちづくりの拠点をおく企業の方々の取り組みをご講演いただきました。訪問をさせていただきました皆さま方、本当に、ありがとうございました。

遠野みらい創りカレッジ

地域創成を行う富士ゼロックスさんと、復興支援に取り組む続けるNPO法人遠野まごころネットさんにお話をいただきました。企業研修の実施や民泊による地域住民との連携など、震災後の新たなまちづくりに取り組む企業の活動と、普通の生活を取り戻すまで復興は終わらないという、沿岸被災地と外部支援団体を結ぶNPOの活動を学びました。いずれも、地域住民に寄り添って一緒に歩み続けることが大事だと学びました。



旧中学校を改修した教室でお話を伺う様子

市長への公開プレゼンテーション

2018年2月10日に浮舟文化会館にて、門馬市長へのプレゼンテーションが実施され、2代目LLOが平成29年度の活動報告と、平成30年度の活動提案を行いました。当日は、小高区役所長、市議会議員、南相馬市教育長、小高にお住まいの方々、初代LLOメンバーなど、多くの方々にご参加をいただき、盛大な発表会となりました。ご参加をいただきました皆さま、本当にありがとうございました！

平成29年度の活動報告

- まちあるき
- 光るベンチづくり
- 高齢者見守り隊
- 高島家の蔵でのイベント
- おだか秋祭りへの参加
- 視察研修

平成30年度の活動提案

小高の魅力をPRしたい

小高を多くの方々に
知ってもらうための動画を作る

高校生の居場所を創りたい

電車の待ち時間に
高校生が過ごす場所を創る

イベントを行いたい

料理教室などを通して
地域住民と交流する

2代目LLOの活動初年度である平成29年度は、6つの活動を中心に小高とはどのようなところかを学びました。1年間の活動を踏まえ、平成30年度は自分たちが新しいものを創り出したい、という目標のもと、3つの提案を行いました。門馬市長からは、「素晴らしい提案だった。一つ一つチャレンジして欲しい、応援したい。」という講評をいただきました。



門馬市長から講評をいただく
2代目LLO



寸劇で提案を行う様子



参加者全員での集合写真

初代LLOへの感謝状授与式

今日のLLO活動の礎を築き上げた初代メンバーが3月に高校を卒業します。新たなステージへと進むメンバーに、門馬市長から感謝状が贈られました。進学や就職など、メンバーの今後の進路は多様ですが、LLOの活動が高校生たちの将来にも繋がっており、小高のまちづくりの新たな息吹となっています。

浦尻未来検討会報告



2017年5月から12月まで、全6回にわたって浦尻行政区と小高復興デザインセンターで共催してきた、行政区の今後を考える未来検討会が終了しました。

現在の浦尻の現状を把握・共有することから始まり、宅地や農地の管理方法・共有空間の整備・行政区の住民のみなさんのつながりなど、これからの浦尻行政区にとって重要な話題についてセンターがアイデア提供し、議論してきました。

未来検討会で話し合った内容は、行政区の大字会で報告されました。浦尻行政区で一連の取り組みは、2018年度以降のセンターにおける活動のモデルとしていきます。

浦尻未来検討会開催の流れ

2016年夏

行政区長（当時）から行政区の今後について考えてほしいとの依頼

2017年春

大字会にて未来検討会発足の承認

2017年5月～12月

浦尻未来検討会開催（計6回）
…議題内容→現在の地域の状況の共有、農地の管理、宅地の管理、意向調査…
…その他→浦尻あるき、日本大学によるサマーキャンプの実施についての説明

2018年1月

大字会にて成果報告

検討会を受けて…

検討会の途中、住民の皆さんから、行政区内の空き家空き地の管理について、所有者の意向を把握しておく必要があるという声が挙がり、住民の皆様に向けて行政区でアンケートを実施しました。

アンケートを通じて、行政区独自の土地管理組織の設立を検討するという結論に至りました。

提案集

～地域活性化のためのアイデア～

浦尻未来検討会において、小高復興デザインセンターが提案したものの一部を掲載します。

農地の管理



比較的管理が必要でない場所→被覆植物を植える ※ヘアリーベッチやクローバーなど

農研機構 HP より
http://www.naro.affrc.go.jp/org/niah/disease_poisoning/plants/hairyvetch.html



鳥獣害対策→忌避作物を植える ※唐辛子やミントなど

農林水産省 HP より
<http://www.maff.go.jp/kinki/seisan/engeitokusan/engesanti/k04.html>



景観的に重要な場所
→景観作物を植える
※ひまわりやコスモスなど



行政区の収入にする
→太陽光パネルの設置

宅地、共有空間の管理



空き家の活用→キャンプなど、イベントなどでの利用



道路の管理→みんなのさんぽみちを作る

天野家 住宅見学会



住宅ではあまり見られない、複雑な
折り返し階段が設けられています。



主屋 2 階から長屋門と米蔵を臨む。



多くの方で賑
わっています。
当日のガイドで
は建物の特徴
の他に、古写真
などで昔の様子
についても紹介
されました。



当日は玄関も靴でいっぱい。多
くの方が見学に来られました。



趣向を凝らして造られた近代和風建築。屋根瓦は京都から取り寄せたものが使
用されています。

桃内の空に音楽が流れる
2017年12月10日開催

冬晴れの日、桃内の天野家の門が開かれました。

桃内駅から見える、大きな屋根の主屋や重厚な土蔵からなる屋敷です。はじめての見学会の朝には、市内からだけでなく福島県内外からも、前庭がいっぱいになるほど大勢の方々が来られました。

ここはイタリア音楽研究家の天野秀延「1905〜1982」の生家です。旧小高町を中心とし、いわき地方を含む浜通り地方の多くの校歌を作曲したことも知られます。地元の小学校で子供たちの合唱を指導したことから、当時のことを懐かしむ声も多く聞かれました。建物をめぐりながら、様々な思い出をたどっているようにうかがえました。たいへん凝った土蔵の左官仕事や独創的な主屋の階段に目が釘付けになり、感嘆の声があがりました。

明治時代末に鉄道からの飛び火で焼失した主屋の再建は、小高出身の建築家二本松孝蔵が手がけ、各地から選り抜かれた極上の材料が用いられています。よりよいものを求め、早くも昭和初期には京都から取り寄せた瓦で主屋の屋根が葺き替えられました。見えない技術に支えられた頑丈な建物は、先の震災にもびくともしませんでした。

土地の歴史を象徴するこの豊かな環境が、地域と家族らの生活の舞台となりました。まさにこの場所が、これからの新たな文化を生み出す土壌となり、小高に受け継がれてゆくことと思います。

寄稿者紹介 金出ミチルさん

2012年から南相馬地域の建物調査に関われ、小高の建物の魅力を発信されています。本記事作成に当たって執筆を快諾いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

「ひだまり菜園」の活動をまとめました！

2017年春にスタートした小高まちなか菜園プロジェクト。第1弾の東町団地「ひだまり菜園」も、立ち上げから約1年が経とうとしています。

その「ひだまり菜園」の活動の足跡を、1冊の本にまとめました。活動の度に発行した「はたけ通信」を全て収録しており、菜園の1年を振り返ることができるものとなっています。小高復興デザインセンターをはじめ、小高区役所や浮舟文化会館等で手に取ることができます。ぜひご一読ください！



小高の四季

2017 ~ 18

田植え後の水田
(片草)



しまわり畑
(大富)



春 夏
冬 秋

雪の積もるまちなか
(そよ風ガーデン)



紅葉の彩り
(小高駅前)



小高復興デザインセンター

2016年夏、設立しました。住民・行政をはじめとして、小高とつながりたいみんなが協働し、実践していく場です。

〒979-2124 南相馬市小高区本町2-89 旧社協会館 TEL：0244-44-5100

Web： <http://td.t.u-tokyo.ac.jp/odaka/> <https://www.facebook.com/OdakaRC/>